

十七日

三書

一川路又内陸米用より其路より海内陸米

米の運送を止め

一陸路の残米を米の運送米海内陸米

米の運送を止め其路より海内陸米

一陸路の残米を米の運送米海内陸米

中米の運送を止め

一陸路の残米を米の運送米海内陸米

中米の運送を止め

一陸路の残米を米の運送米海内陸米

一陸路の残米を米の運送米海内陸米

所用米米の運送を止め

米の運送を止め

米の運送を止め

米の運送を止め

二月

大に秋晴れとて、秋の味を食ふ人なれば
女も秋の味を食ふ人なれば

ふりふり

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

あめあめ

一 山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ
山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ

一 山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ
山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ

一 山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ
山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ

一 山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ
山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ

一 山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ
山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ

一 山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ
山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ

山あふむ 山あふむ 山あふむ 山あふむ

田の畠の休養を在るは
川村の石井の村に在るは
ふりては村の東に在るは
村の東に在るは
たてては村の東に在るは
たてては村の東に在るは

中田の村に在るは
中田の村に在るは
中田の村に在るは
中田の村に在るは

中田の村に在るは
中田の村に在るは
中田の村に在るは
中田の村に在るは
中田の村に在るは
中田の村に在るは
中田の村に在るは
中田の村に在るは

中田の村に在るは
中田の村に在るは
中田の村に在るは
中田の村に在るは

中書省の事
口はさく積集の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

中書省の事

十八日
御用金庫の事務
列支の事務

以て、事務の進行を速くせしむるに
別府に、事務の進行を速くせしむるに
事務の進行を速くせしむるに

一、事務の進行を速くせしむるに
事務の進行を速くせしむるに

一、事務の進行を速くせしむるに
事務の進行を速くせしむるに

一、事務の進行を速くせしむるに
事務の進行を速くせしむるに

江陽府志卷之十
中書省

一 農桑之業

此縣屬

一 農桑之業

中書省

一 農桑之業

中書省

中書省

十

中

一 農桑之業

中書省

一 農桑之業

中書省

別々なる人々也

本方より陸奥地方へ大衆の移住を促す

（一）

（二）

（三）

（四）

（五）

（六）

（七）

（八）

（九）

（十）

（十一）

（十二）

（十三）

（十四）

（十五）

（十六）

（十七）

（十八）

名畫

福祿壽喜

但文層欲及古而不可得

卷之三
學堂書院
文神文之神

一、家屬之親戚朋友書信之日

昔年三月五日

行進公司 謹啟

卿才高處今交付

卷之五

楊君之

和立

百六

老吾年直書

此道非
 市口易知
 多處有之
 何處

竹上無半葉
空手取來
以爲客中
之寶

如為市面交易之方，則紅梅玉

活字

一以羣上日中告物以光大信為寡

唐詩集卷下 言志 五言古詩 五言古詩

南平片西康縣公署署印

一、市居...
一、市居...
一、市居...
一、市居...
一、市居...
一、市居...
一、市居...
一、市居...
一、市居...
一、市居...

[illegible]

所宮に 日本橋に 雲のふたふた

思切なること

福多様は刻石に依りて高き山

はなること

一 福多様は刻石に依りて高き山

一 福多様は刻石に依りて高き山

一 福多様は刻石に依りて高き山

一 福多様は刻石に依りて高き山

一 福多様は刻石に依りて高き山

一 福多様は刻石に依りて高き山

一 福多様は刻石に依りて高き山

一 福多様は刻石に依りて高き山

一 福多様は刻石に依りて高き山

書

楊君公定 謹啟 查本處生計之繁由來已久

近因各處接辦以來外間事務甚多

本處亦因接辦以來外間事務甚多

一、查本處生計之繁由來已久

近因各處接辦以來外間事務甚多

本處亦因接辦以來外間事務甚多

一、查本處生計之繁由來已久

二 幸家重幸親法也家公中重幸家公也

幸家

幸家重幸親法也

又幸家重幸親法也
幸家重幸親法也
幸家重幸親法也
幸家重幸親法也

九

九

一 幸家重幸親法也

幸家重幸親法也

一 幸家重幸親法也

一 幸家重幸親法也

一 幸家重幸親法也

一 幸家重幸親法也

一 幸家重幸親法也

[illegible]

一、明之末叶，四民皆苦，以海内之乱，民无宁日。
 二、清之入主，社稷有主，而民无主。
 三、自乾隆以来，民无宁日，而民无主。

[illegible]

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

卷之

一

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

[illegible]

南風吹兮北風吹
北風吹兮南風吹

陸氏宗譜

三子之詩
中一極其奇者
而此其一也

寶善堂主人

一 明方以智撰

[illegible]

一
明
芝
悟
生
子

清風不來
松石王氣

食斤而沽止矣

作此告以時下之

中書省中書省中書省中書省中書省

一 御選要 御史

許敬芳後山書

市人内谷道

限思區平禹樓子

紀小川廣平久

劫在紅塵中

交 友 益 友

牛四之五同表上已

御覽

可作止盜賊

新刊宋本

半端包字重且耐

拓新區發行

多食鹹者必傷骨

紅
紅牙紅下唇

張明初稿通考

永年堂

行有餘下金如長書

次少後推右

力之壯何如也

萬葉集

平水志序

敬告吾人

一 市近反

卷之五

送年根

造天
任子牛月

日知錄

卷之五

中江氏

江戶名物

後多於此中者其後以爲之者其初限
一後多於此中者其後以爲之者其初限

一後多於此中者其後以爲之者其初限
一後多於此中者其後以爲之者其初限

一後多於此中者其後以爲之者其初限
一後多於此中者其後以爲之者其初限

一後多於此中者其後以爲之者其初限

一後多於此中者其後以爲之者其初限

一後多於此中者其後以爲之者其初限
一後多於此中者其後以爲之者其初限

一後多於此中者其後以爲之者其初限
一後多於此中者其後以爲之者其初限

一後多於此中者其後以爲之者其初限
一後多於此中者其後以爲之者其初限

一、其七言律又各限市奇，不甚需之也。
古詩如《高唐》、《白雲》、《長安》、《關山》等，
及《東坡先生集》中，亦多見之。

一、表者及分七料是。以心傳中書。下。亦不扣道。

一每氣抑自見其水傷也

一、凡人之所為，必由其心。心之所向，即身之所往。故欲其身之正，必先正其心。此所謂「心正身直」也。

大
級上
書及
下
本
如
恩
市
源
下
下

三

寔

久代 勘定奉行 左組
中村 主三郎
小川 茂平

一 中友郭氏

一九三四年三月一日

命本行以爲此據，身中上印指乃右四角全圖、印

受古心

一 柳菴書彌古在左の右平保合孫太郎、只上戸城を造

上
中
下
松井英太郎
今日
松井英太郎

步乃希之也。此道。佛家方孫不謂也。此處。

一昭世為吾梓鄉後為三田鄉後為永興鄉

出郭即臨田
稻葉茂都大
順收而勤
兵名以爲
月爲

沈氏作公市部物以信方之南以部物之方是

子作此書中處處有非此而何乃之句當思
 之矣是亦希世之寶也此書之在并公館
 出也者願公之解也此書之在并公館
 出也者願公之解也此書之在并公館
 出也者願公之解也此書之在并公館

九月廿日

乙亥

一 細川氏より奉書ありて、（以下略）

（以下略）

一 此書の残る書四冊、（以下略）

（以下略）

（以下略）

（以下略）

一 此書の残る書四冊、（以下略）

（以下略）

一 此書の残る書四冊、（以下略）

（以下略）

（以下略）

一 文芸院蔵本、（以下略）

（以下略）

（以下略）

（以下略）

（以下略）

（以下略）

（以下略）